

平成 30 年度

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島												
病害虫名	白さび病														
10 月の発生量 (現況)	(発生なし)並														
11 月の増減傾向	→														
増減傾向の根拠	発病茎率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。														
発生量の根拠 (調査結果)															
<p>発病率(%)</p> <p>今 年</p> <p>平 年</p> <p>並の範囲</p> <p>白さび病の発生推移</p> <table border="1"><caption>白さび病の発生推移 (調査結果)</caption><thead><tr><th>月</th><th>今 年 (%)</th><th>平 年 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>9</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>10</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>11</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr></tbody></table>				月	今 年 (%)	平 年 (%)	9	0.0	0.0	10	0.0	0.0	11	0.0	0.0
月	今 年 (%)	平 年 (%)													
9	0.0	0.0													
10	0.0	0.0													
11	0.0	0.0													
防除のポイント															
<ul style="list-style-type: none">多湿条件下で発生するので、不要な下葉、腋芽は除去し、通風をよくする。発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。															

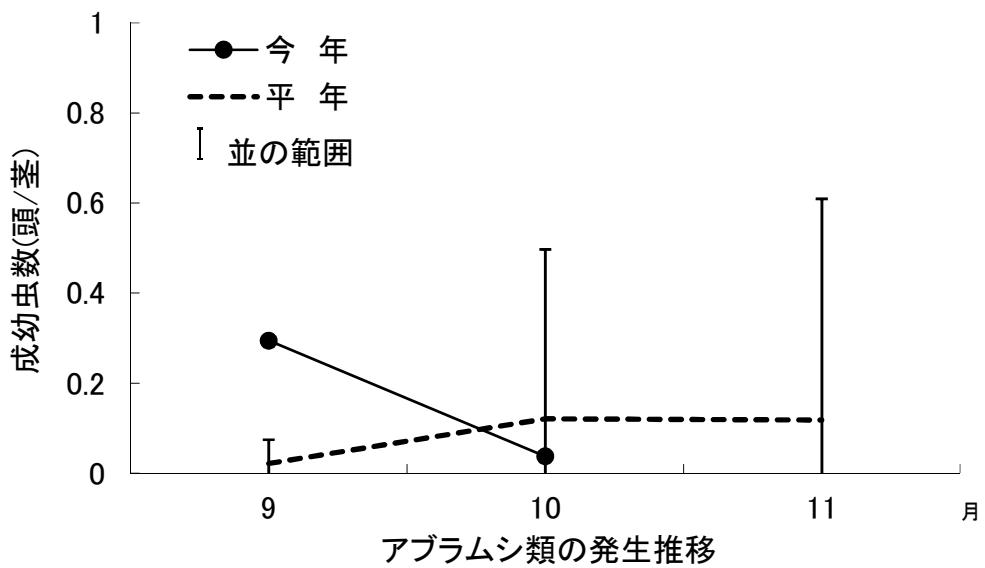
平成 30 年度

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島												
病害虫名	① アザミウマ類														
10 月の発生量 (現況)	やや多														
11 月の増減傾向	→														
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。														
発生量の根拠 (調査結果)															
<p>成虫数(頭/茎)</p> <p>アザミウマ類の発生推移</p> <table border="1"><caption>Estimated data points from the graph</caption><thead><tr><th>Month</th><th>This year (成虫数/頭)</th><th>Average year (成虫数/頭)</th></tr></thead><tbody><tr><td>9</td><td>0.05</td><td>0.02</td></tr><tr><td>10</td><td>0.30</td><td>0.05</td></tr><tr><td>11</td><td>-</td><td>0.02</td></tr></tbody></table>				Month	This year (成虫数/頭)	Average year (成虫数/頭)	9	0.05	0.02	10	0.30	0.05	11	-	0.02
Month	This year (成虫数/頭)	Average year (成虫数/頭)													
9	0.05	0.02													
10	0.30	0.05													
11	-	0.02													
<p>発生種は、クロゲハナアザミウマであった。 防除員の報告：中発生(久米島)</p>															
防除のポイント															
<ul style="list-style-type: none">苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。定植時に粒剤を施用する。採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。地際部から新しく出てきた腋芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。															

平成 30 年度

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
10 月の発生量 (現況)	並		
11 月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)



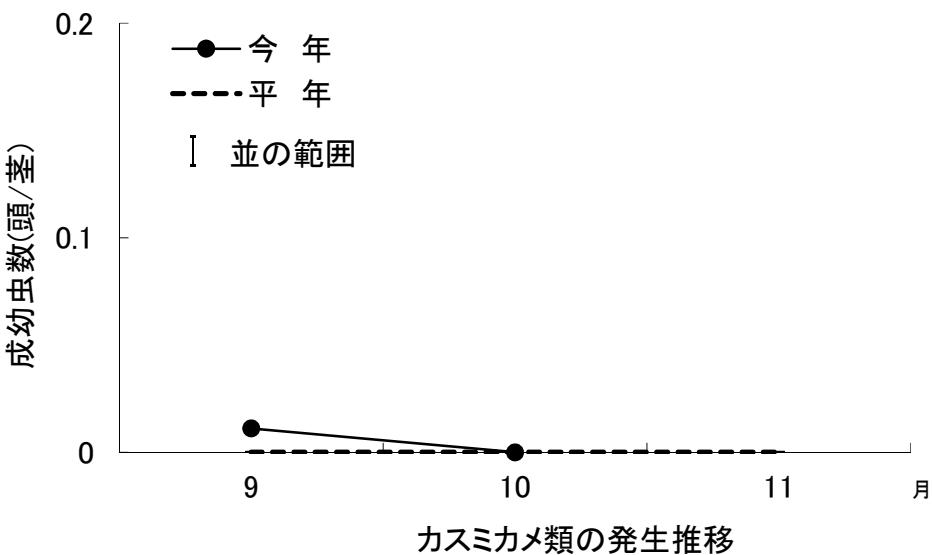
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- ・シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・増殖が早いので、新葉や上位葉に多いことに留意し、早期発見・防除に努める。

平成 30 年度

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島												
病害虫名	③ チョウ目幼虫														
10 月の発生量 (現況)	(発生なし)並														
11 月の増減傾向	→														
増減傾向の根拠	幼虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。														
発生量の根拠 (調査結果)															
<p>幼虫数(頭/株)</p> <p>月</p> <p>チョウ目幼虫の発生推移</p> <table border="1"><caption>調査結果 (頭/株)</caption><thead><tr><th>月</th><th>今 年</th><th>平 年</th></tr></thead><tbody><tr><td>9</td><td>0.011</td><td>0.003</td></tr><tr><td>10</td><td>0.001</td><td>0.001</td></tr><tr><td>11</td><td>0.001</td><td>0.001</td></tr></tbody></table>				月	今 年	平 年	9	0.011	0.003	10	0.001	0.001	11	0.001	0.001
月	今 年	平 年													
9	0.011	0.003													
10	0.001	0.001													
11	0.001	0.001													
防除のポイント															
<ul style="list-style-type: none">新しい食痕や虫糞をつけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺する。卵塊やふ化直後の幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除く。中齢期以降は農薬の効果が低くなるため、早期発見に努め、若齢期に防除を行う。															

平成 30 年度

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島												
病害虫名	力スミカメ類														
10 月の発生量 (現況)	(発生なし)並														
11 月の増減傾向	→														
増減傾向の根拠	成虫・幼虫虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。														
発生量の根拠 (調査結果)															
 <table border="1"><caption>力スミカメ類の発生推移</caption><thead><tr><th>月</th><th>今 年 (頭/莖)</th><th>平 年 (頭/莖)</th></tr></thead><tbody><tr><td>9</td><td>0.02</td><td>0.01</td></tr><tr><td>10</td><td>0.01</td><td>0.01</td></tr><tr><td>11</td><td>0.00</td><td>0.00</td></tr></tbody></table>				月	今 年 (頭/莖)	平 年 (頭/莖)	9	0.02	0.01	10	0.01	0.01	11	0.00	0.00
月	今 年 (頭/莖)	平 年 (頭/莖)													
9	0.02	0.01													
10	0.01	0.01													
11	0.00	0.00													
防除のポイント															
<ul style="list-style-type: none">・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。															

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島												
病害虫名	④ ハダニ類														
10月の発生量（現況）	(発生なし)並														
11月の増減傾向	↗														
増減傾向の根拠	雌成虫数の例年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。														
発生量の根拠（調査結果）															
<p>ハダニ類の発生推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>例年 (頭/莖)</th> <th>今年 (頭/莖)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9</td> <td>0.02</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>0.05</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>0.15</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				月	例年 (頭/莖)	今年 (頭/莖)	9	0.02	0.01	10	0.05	0.01	11	0.15	-
月	例年 (頭/莖)	今年 (頭/莖)													
9	0.02	0.01													
10	0.05	0.01													
11	0.15	-													
防除のポイント															
<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。 ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。 															